



PTR HONDA

Hikaru okubo 大久保 光

World Supersport Championship

round - 8 Circuito do Estoril October.17-18

予選 19 番手 レース 1-12 位 レース 2 リタイヤ



スーパースポーツ世界選手権（WSS）第8戦は、ポルトガルのエストリル・サーキットで開催されました。最終戦の舞台となったサーキットは、1993年以來、27年ぶりの開催、ほとんどのライダーが未経験の挑戦となりました。

大久保は金曜日の走行からトラブルが続き走れずに予選を迎えます。予選もエンジントラブルで、ほとんど走ることが出来ず、奇跡的に走れた1周の攻撃で、予選19番手を獲得します。

ぶっつけの走行に近い状態でレース1に挑み、10番手争いを繰り広げて12位でチェッカーを受けました。レース1を走り切ったことで、コースへの理解度を増しジャンプアップを狙ったレース2ですが、ここでもトラブルに見舞われます。クラッチトラブルで、走行を危険と判断するしかありませんでした。

今季は、新型コロナウイルスの影響から、大きくスケジュールが変更され、マシントラブルが続いたことで、ケガもあり、思うようなシーズンを過ごすことが出来ませんでした。

大久保光

「僕だけでなく、多くのライダーが、しっかりとしたシーズンを戦うことが出来ませんでした。その中で、懸命に最高のパフォーマンスを引き出そうとしました。ですが、トラブルが続き、コースにいるよりもピットにいる時間が長いという戦いが続きました。これまでのWSS参戦の中でも、とても、辛いシーズンになりました。支援、応援して頂いている皆様にも、いい報告をすることが出来ずに、申し訳ない気持ちでいました。

そして、このままで終わるわけにはいかないという強い気持ちが強くなっています。来季から新型となるHonda CBR600RRが、アジアを拠点として発売されることもあり、チームはホンダ以外の選択肢を模索することを理由に契約の解消となりました。自分としては、Hondaでレースが出来る道を探したいと思っています。難しい状況であることは承知していますが、新型マシンで、自分の力を試したい。ここまで、培った経験を、結果に結び付けたい。レースを始めて頃から、いつかはスーパーバイク世界選手権を走りたいという夢を持ち続けています。その変わらない願いを実現するためにも、来季もWSSで戦い、結果を残したいと思っています。これまでと変わらない支援、応援をよろしくお願い致します」

新たな挑戦が決まりましたら、報告させていただきます。2020年の応援、ありがとうございました。心から感謝しています。